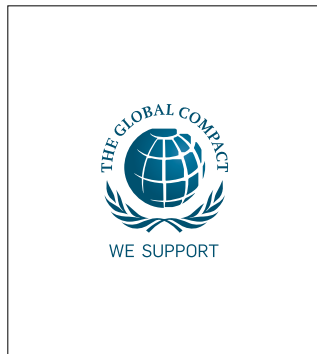


コニカミノルタのCSR

コニカミノルタは、経営理念である「新しい価値の創造」の実現により、力強い成長を続けるとともに、「社会に支持され、必要とされる会社」となることを目指しています。そのため、事業活動を通じて社会の質を向上させる価値を生み出し、社会的課題の解決に貢献していきたいと考えています。

コニカミノルタのCSR活動は、こうした経営理念と「コニカミノルタグループ行動憲章」を基本としています。その理解と実践のよりどころとして、全世界共通の「コニカミノルタグループ行動憲章ガイダンス」を作成し、行動憲章の各項目における望ましい行動



を示しています。その中で、国連が提唱し、コニカミノルタ(株)も署名している「グローバル・コンパクト」をはじめ、「世界人権宣言」などの国際的な社会規範を尊重し、その理念に即して行動することを明記しています。

グローバル・コンパクトの10原則

人権	原則1: 人権擁護の支持と尊重
	原則2: 人権侵害への非加担
労働基準	原則3: 組合結成と団体交渉権の実効化
	原則4: 強制労働の排除
	原則5: 児童労働の実効的な排除
	原則6: 雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7: 環境問題の予防的アプローチ
	原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ
	原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

経営理念 新しい価値の創造

コニカミノルタグループ行動憲章

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。コニカミノルタグループは、全社員が本憲章の精神を深く認識し、社会的良識をもって行動します。

1. 商品の有用性・安全性

私たちは、社会的に有用な商品・サービスを安全性に十分配慮して開発、提供し、消費者・ユーザーの信頼を獲得します。

2. 公正・透明な企業活動

私たちは、法令・社会的規範を遵守し、国際ルール、定款に則して行動し、公正・透明な企業活動を行います。

3. 社会とのコミュニケーションと情報の開示

私たちは、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を適時かつ公正に開示します。

4. 環境の保全

私たちは、地球環境問題の重要性を認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。

経営トップは本憲章の精神の実現が自らの役割と責任であることを認識し、率先垂範の上、全社員に周知徹底します。また、グループ内外の声を常時把握し、実効あるグループ内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

5. 社会への貢献

私たちは、グローバルな視野を持ち、地域の文化や慣習を尊重し、積極的に社会に貢献します。

6. 社員の尊重

私たちは、社員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境を確保するとともに、社員の人格、個性を尊重します。

7. 責任ある対処

本憲章に反するような事態が発生したときには、予め定めたコンプライアンス手続きに則り、経営トップ自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ確かな情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行います。

CSR推進体制

コニカミノルタ(株)では、代表執行役社長が、グループ全体のCSRに関する責任と権限を担う「CSR担当執行役」を兼ね、その直下に置いた「CSR・広報・ブランド推進部」が、グループ全体のCSRマネジメントを推進しています。同部は、グループ内のコーポレート企画管理部門と連携して、CSR活動の重点目標の設定、進捗確認を行うとともに、社外に対する情報開示の役割を担っています。

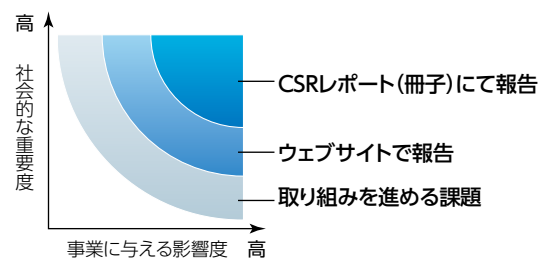
また、CSR活動の重要テーマである環境・安全・品質については、環境・安全・品質担当執行役のもとに設置した「社会環境統括部」が担当しています。同部はこれら3分野の責任者会議や委員会などを主催して、グループ全体の方針策定、体制構築、進捗管理を行うとともに、各事業部門と緊密な連携を取って、情報提供や施策の支援を進めています。

なお、CSR活動の進捗については、毎週、CSR・広報・ブランド推進部長がCSR担当執行役に報告し、併せて施策のレビューや提案を行っています。さらに、重要案件については適時、経営審議会などに諮るなど、経営課題の一環としてCSR活動を進めています。

CSR活動の重点目標の設定

CSRの重点目標の設定にあたっては、まず、さまざまなコミュニケーションを通じて得られたステークホルダーの皆様の声から、関心や要望の高い項目の把握に努めました。また、グローバル・コンパクト、ISO26000をはじめ、CSR関連の国際的要請事項を検討しました。さらに、各分野の事業計画の策定にあたって検討されたリスクと機会を集約、整理しました。これらの結果に基づいて、社会的な重要度が高く、かつ事業に与える影響が大きいと思われる課題を抽出し、コニカミノルタの重点目標としました。

CSRレポート(冊子)では、重点目標の中でも、よりステークホルダーの皆様の関心が高いと思われる項目を中心に、具体的な取り組みおよびその進捗を報告しています。



社会的責任投資(SRI)調査機関の評価

コニカミノルタ(株)は、2013年2月、スイスに拠点を置く、世界の代表的なSRI調査・格付会社であるRobecoSAM社によって、「ゴールドクラス」に初めて選定されました。



また、世界で最も良く知られるSRI指標の一つである「FTSE4Good Global」インデックスに10年連続で採用されています。

さらに、「DJSI(Dow Jones Sustainability Index)2012」のWorld部門およびAsia Pacific部門、「モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)」の構成銘柄に選定されているほか、「oekom research AG」によるCSR格付で「Prime」の認定、フォーラム・エティカルの「Ethibel Pioneer」および「Ethibel Excellence」の投資ユニバースへの選定など、さまざまなSRI調査機関から高い評価を受けています(2013年6月19日現在)。



コニカミノルタとステークホルダーとの関わり		目標と実績	
ステークホルダー	主な対話機会・コミュニケーションツール	テーマ	
お客様  P25	コニカミノルタは世界各国で事業を展開しています。お客様は事業ごとに異なりますが、主要事業における主なお客様は企業、官公庁、病院などです。	● ウェブサイト、コールセンターなどの相談窓口 ● ウェブサイト、ニューズレターによる製品情報提供 ● 顧客満足度調査 ● お客様訪問による情報交換 ● ショールーム、展示会における情報交換 ● セミナーの開催	製品の安全性確保と、品質トラブルの未然防止 お客様満足の向上
お取引先  P30	コニカミノルタが原材料や部品の供給を受けているお取引先は、事業ごとに異なりますが、日本および中国を中心とするアジアの会社が全体の9割以上を占めています。	● お取引先説明会 ● 調達コラボレーションシステム ● CSRアンケート(自己診断アンケート)	サプライチェーンにおけるCSRの推進
株主・投資家  WEB	コニカミノルタ(株)の株主数は30,206名です。持株比率は外国法人などが44%、日本の金融機関40%となっており、機関投資家および海外からの投資比率が高いことが特徴です(2013年3月31日現在)。	● 株主総会 ● 投資家向け説明会 ● 投資家訪問 ● アニュアルレポート、株主通信 ● IRサイト	株主・投資家とのコミュニケーション強化
従業員  P33	コニカミノルタで働く従業員数は、全世界で41,844名です。その構成比率は、日本30%、欧州20%、北米18%、中国を中心とするアジアおよびその他が32%です(連結対象の正規従業員数。2013年3月31日現在)。	● 双方向のイントラネット ● グループ報 ● 従業員意識調査 ● 労働組合との協議 ● 内部通報システム(ヘルプライン) ● 経営トップによる生産現場巡視時の意見交換	多様な人材の登用および育成 労働安全衛生の推進
地域社会・国際社会  P37	コニカミノルタは、世界41カ国に拠点を置いており、それぞれの地域のコミュニティの一員として、活動しています。	● 地域社会への貢献活動 ● 地域報告会、招待イベント ● 講演、教育の場への講師派遣 ● 業界団体を通じた活動 ● 環境報告書、ウェブサイト	各国における社会貢献活動の展開
地球環境  P15	ものづくりに携わる企業として、事業活動にともないさまざまな環境負荷を与えています。例えば、気候変動に影響を与えるCO ₂ 排出や、枯渇資源である石油由来資源の使用、生態系への影響などです。	● CSRレポート、環境報告書、ウェブサイト ● 地域報告会、説明会 ● 研究機関との協働	地球温暖化防止 循環型社会への対応 化学物質リスクの低減 生物多様性への対応

※1 重大事故：製品使用者の生命、身体に重大な被害を及ぼした場合、製品以外の財産に重大な被害を及ぼした場合を対象とする
 ※2 品質トラブル指標：製品化工程および市場での品質トラブルに関わるコストをベースとした、コニカミノルタ独自の指標

	2012年度目標	2012年度実績	2013年度目標
	1) 製品の重大事故※1 発生件数:0件 2) 品質トラブル指標※2: 2013年度までに2008年度比 で半減	1) 0件 2) 78%削減 ● 市場品質問題のデータベース登録案件 に対する審査・評価の対応率100% ● 製品安全教育の継続(対象者の約70%の 教育を修了) ● 製品ライフサイクルの視点で品質課題を 抽出し、施策を検討・実施	1) 製品の重大事故発生件数:0件 2) 品質トラブル指標: 2008年度比で80%削減 ● 製品安全教育の全対象者の受講完了 ● 製品ライフサイクルでの品質リスクマネ ジメントの見える化の促進
	● 「お客様関係力」の強化	● 「お客様関係力強化推進責任者会議」を 設置し、事業ごとに管理指標の設定と施 策の具体化を実施	● 事業単位で設定した「お客様関係力」の 強化の管理指標(ロイヤルティ測定値な ど)の達成
	● CSR調達の展開	● ほとんどの事業部門で、CSR調達を品質マ ネジメントシステムISO9001のお取引先 評価に組み込み完了 ● 診断員教育の実施	● 全事業部門で、CSR調達を品質マネ ジメントシステムISO9001のお取引先評 価に組み込み完了し、運用開始 ● 全事業部門を対象とした診断員教育の 継続
	● 紛争鉱物規制への対応	● 紛争鉱物規制に対応する推進体制を構築	● 紛争鉱物規制対応のためのマネジメント システムの構築
	● アジア地域での直接対話による IR活動強化 ● IRサイトの充実	● 香港およびシンガポールでのコンファ レンスおよび投資家訪問を実施 ● ウェブサイトの使いやすさや情報の充実 度を評価する「Gomez IRサイトランキ ング2013」で金賞を受賞	● 個人投資家向けウェブサイトの充実 ● 個人投資家向け説明会の実施
	● グローバルに活躍できる人材の 登用・育成 ● 女性従業員のキャリア形成支援	● グループ共通の人材育成と活用のため のプラットフォームを構築 ● グローバルなビジネスリーダーの育成プ ログラムの継続 ● グローバル人材の採用と人材交流の推進 ● 女性管理職育成のためのサポートプロ グラムの実施	● 人材育成と活用のためのプラットフォ ームをグループワイドに浸透 ● ビジネスリーダーの育成プログラムの対 象をマネージャークラスに拡大し、地域 ごとに開催
	1) 重篤災害※3発生件数:0件 2) 休業災害度数率:0.1以下	1) 0件 2) 国内0.11 海外0.10 ● 類似災害の分析と再発防止策をグル ープワイドに展開 ● 設備本質安全化のモデル案件の拡大と 海外展開	1) 重篤災害発生件数:0件 2) 休業災害度数率:0.1以下 ● 就業時災害発生リスクの低減、類似災害 の再発防止 ● 設備本質安全化の継続
	→P.37に2012年度の主な取り組みを掲載		
	→  P23		

※3 重篤災害:①死亡、長期療養を要する(または可能性のある)疾病、障害の残る(または可能性のある)怪我、特定伝染病
②一時に3人以上の労働者が業務上死傷または罹病した災害(不休含む)